

日本小児科学会予防接種感染対策委員会 声明

経口ポリオ生ワクチンの接種について

今般、神戸市において、経口ポリオ生ワクチン（OPV）非接種者（接触者）に生ワクチン株による麻痺症例が発生したことが報告された。

しかし世界的には野生株ポリオの流行がまだ存在する現実の中、わが国においては従来どおりポリオワクチン接種率を高く保つ必要があり、不活化ポリオワクチン（IPV）導入までは、OPV 接種の徹底を継続すべきであることを日本小児科学会会員諸氏にはご理解いただきたい。

わが国での OPV 接種者におけるワクチン関連麻痺（VAPP）の出現頻度は昭和 56 年～平成 12 年の 20 年間で、免疫異常のない被接種者から麻痺患者が出た割合は約 450 万人当たり 1 人、接種者の場合には約 550 万人当たり 1 人とされているが、最近では 200 万接種あたり 1 例という報告もある（*1）。これらの報告に用いられている VAPP 症例数はウイルス検査による確定診断例に基づくため、実際の VAPP 発生頻度は、上記報告より高い可能性がある。

予防接種実施要領に基づいて実施されている予防接種後副反応報告は、予防接種との因果関係の有無に関係なく予防接種後に健康状況の変化をきたした症例を集計したものである。これらの症例の中には、予防接種によって引き起こされた反応だけでなく、予防接種との関連性が考えられない偶発事象等も含まれているが、最近 5 年間の報告書の集計によると、ポリオワクチン接種後の麻痺例は、平成 20 年度は 7 例-平成 19 年度報告書に記載された暫定値（うち 1 例は回復）、平成 19 年度は 4 例、平成 18 年度は 3 例（うち 1 例はその後回復）、平成 17 年度は 1 例（その後回復）、平成 16 年度は 3 例（うち 1 例は回復、1 例は接種 6 年後の報告、1 例は被接種者の家族例）、平成 15 年度は 2 例（うち 1 例は髄液からコクサッキーウイルスが分離）が報告されている。また平成 13～19 年に、ポリオウイルス分離・同定により感染研で確定診断がなされた麻痺症例は計 7 例であり（副反応報告事例との重複あり）、すべてのポリオウイルス分離株はワクチン株と同定されている。

既に IPV が導入されている国が多くなってきている中、昭和 55 年以降、野生株ポリオウイルスが根絶されている我が国において、少ない頻度ではあるが上記のような VAPP が発生することは重大な問題である。わが国でも極力早期の IPV 導入が喫緊の課題なので、国、審査機関、関係者に対して、日本小児科学会は最大限の努力を要請しているところである。

WHO によるポリオ根絶計画の進行にも関わらず、なおインドやパキスタン、アフガニスタン、アフリカの一部地域などで流行が持続している（*2）。また、上記流行国からの輸入例や（*3）、ワクチン接種率の低下した他の地域での野生株ポリオの再流行（*4、*5）、ワクチン由来ポリオウイルスによる流行が経験されており（*6）、世界根絶が達成されるまでは、OPV、IPV を問わず、ワクチン接種を継続し、かつ接種率を高く保つことが必要とされている。世界ポリオ根絶達成後には、VAPP およびワクチン由来ポリオウイルスによるポリオ流行のリスクを考慮して OPV 接種を世界的に停止することが想定されており、IPV 導入によるポリオ集団免疫の維持が必須と考えられている。

IPV は、わが国においても DPT-IPV 混合ワクチンとして臨床治験が実施されているが、本格的導入までなお時間を要するものと考えられる。

以上より、わが国ではポリオワクチン接種率を高く保つ必要があり、IPV 導入までは OPV 接種を継続すべきであることを改めてご理解いただきたい。

また、急性弛緩性麻痺症例の場合、VAPP も考慮し、急性期の便検体を、発症後できるだけ速やかに、24 時間以上の間隔をあけて、少なくとも 2 回以上確保し、確保した便検体については最寄りの保健所を

通してウイルスの分離同定検査を依頼すること、ワクチン株による急性灰白髄炎（ポリオ）であっても、感染症法に基づく届出が義務づけられていることの周知をお願いしたい（*7）。

なお、ポリオ生ワクチンの2次感染者（接触者のVAPP）の救済について、ワクチン接種児の家族以外にも対象を広げる改正が行われたことを付記する（「ポリオ生ワクチン2次感染対策事業の実施についての一部改正」平成22年4月1日付け*7）。

- * 1 ポリオ関連麻痺の発生率について、Hao L, Toyokawa S, Kobayashi Y: Poisson-model of risk of vaccine-associated paralytic poliomyelitis in Japan between 1971 and 2000. Jpn. J. Infect. Dis, 61:100-103,2008 では、「接種者のVAPP 1/370万接種、接触者のVAPPは1/440万接種、合計1/200万接種」としている
- * 2 Global Polio Eradication Initiative : Wild Poliovirus Weekly Update. 2010年4月現在 [URL: http://www.polioeradication.org/casecount.asp](http://www.polioeradication.org/casecount.asp)
- * 3 WHO: Maintaining the Polio-free Status of the WHO Western Pacific Region. Expanded Programme on Immunization (EPI) November 2008.
- * 4 Resurgence of wild poliovirus types 1 and 3 in 15 African countries, January 2008-March 2009. WER. 84 (16) : 133-140, 2009
- * 5 POLIOMYELITIS - WORLDWIDE (04): TAJIKISTAN, UZBEKISTAN SUSPECTED. ProMED-mail. Published Date 24-APR-2010. 2010年4月現在 URL: http://apex.oracle.com/pls/otn/f?p=2400:1001:2024395197348400::NO::F2400_P1001_BACK_PAGE,F2400_P1001_PUB_MAIL_ID:1010,82397
- * 6 Global Polio Eradication Initiative : Vaccine derived polioviruses. Update. 2010年4月現在 URL: http://www.polioeradication.org/content/fixd/opvcessation/opvc_vdpv.asp
- * 7 ポリオ生ワクチン接種後の二次感染対策及び「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」第12条第1項及び第14条第2項に基づく届出の基準等の一部改正について：厚生労働省健康局結核感染症課長通知（健感発0311第1号平成22年3月11日）